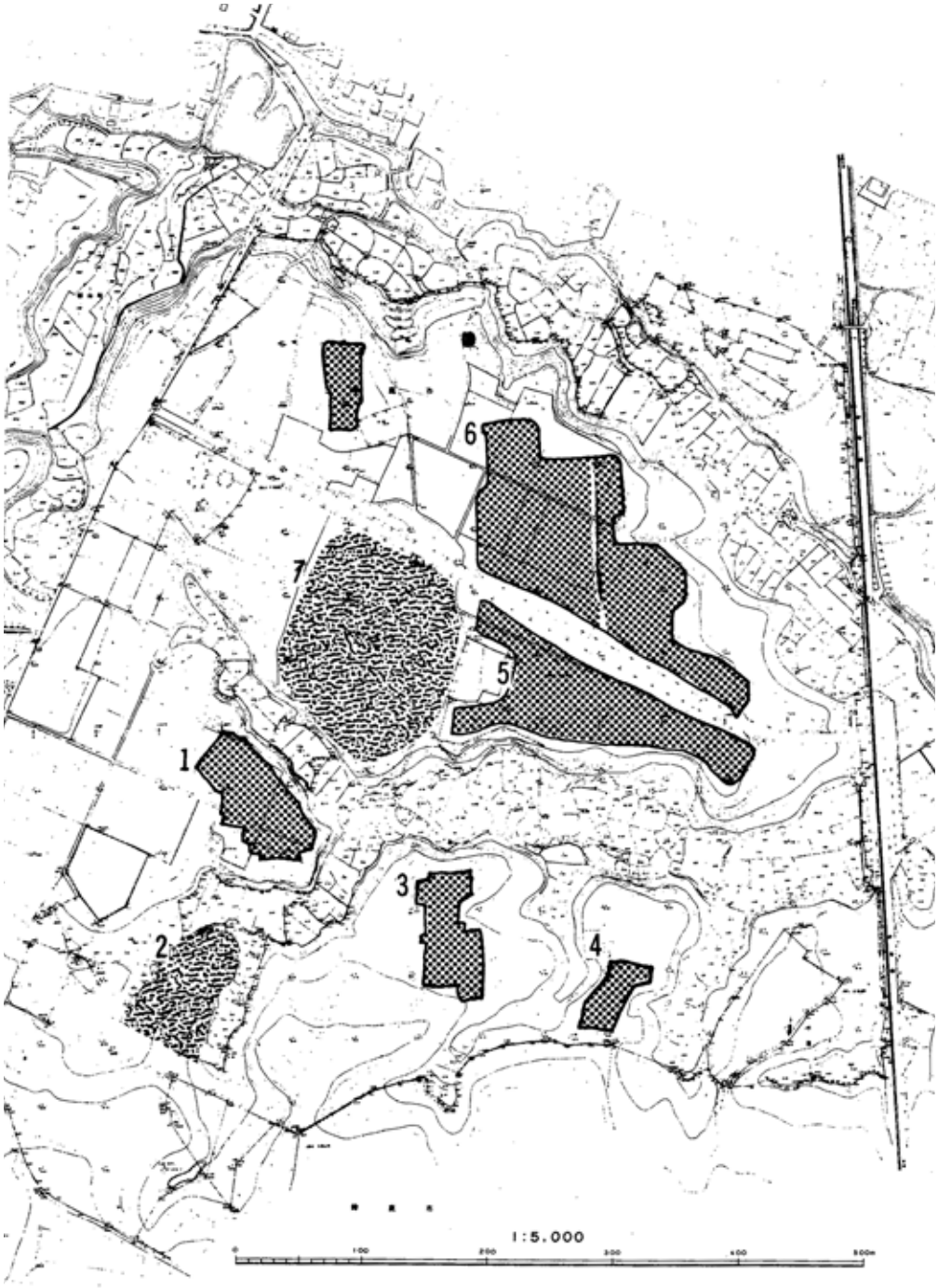
概要報告 8

鈴 鹿 市 郡 山 町

末野C遺跡調査概報

1979.4

鈴鹿市遺跡調査会



付図１　郡山遺跡群地形図

①西高山Ｃ遺跡　②追谷縄文遺跡　③西高山Ａ遺跡
④西高山Ｂ遺跡　⑤末野Ｂ遺跡　⑥末野Ｃ遺跡
⑦末野Ａ遺跡

Ⅰ　はじめに

中瀬古駅に通ずる，仮設道路北側には，約 160 箇所の試掘壙を設けている。遺構，遺物が明らかになった箇所は，中央から，東に寄った所で，ここを末野Ｃ遺跡の調査対象地域とした。そのほかに，点在して遺構が明らかになった箇所は，試掘坑を拡張し，調査することにした。本遺跡は，広範な面積を擁するために，地形測量の基準杭Ｒ２，Ｒ３，を中心に，東側を末野ＣⅠ地区（13,000㎡），北西隅の拡張部を含め，西側を末野ＣⅡ地区（10, 000㎡）更に，ＣⅡ地区から，北西方向にあたる，拡張部をＣⅢ地区（2,000㎡）とし，ＣⅠ地区，東側より昭和 53 年 10 月から，調査に着手した。Ｃ遺跡全体がほぼ平担で台地北縁辺部は，Ｂ遺跡と同様，急な崖状となり，下の谷は，水田として利用されている。ＣⅠ，ＣⅡ地区は，畑地，ＣⅢ地区は，山林内にある。

遺構番号は，末野ＣⅠ地区に，100 番台を，ＣⅡ地区は，200 番台，ＣⅢ地区は 300 番台を与えることにした。

Ⅱ　遺　　構

ＣⅠ，ＣⅡ地区は，畑として，深く耕作されていたため，包含層は削り取られ 15 ～ 20 ㎝の耕作土を取り除くと，直ぐ遺構面となる。ＣⅢ地区は，山林内にあるため，10 ～ 15㎝の包含層の下に，遺構面を検出することが出来た。

遺構は，ＣⅠ地区では，発掘区の東端部，ＣⅡ区では，北縁辺部から，少し入った台地の中央部，ＣⅢ地区は，台地北縁辺部に近いところから，多数検出された。

１．〈ＣⅠ地区〉

発掘区の東端部のほかに，西区，北区にも数は少ないが，広く点在している。遺構は，奈良～平安・鎌倉時代に至る，建物を中心に土壙・溝址などが見つかっている。

奈良時代の建物（11 棟）は，発掘区，東端部でも，西側に多く認められた。建物址を，棟方向によって分類すると，Ⅰ群（磁北を向くもの）SB103，106，Ⅱ群（磁北より，わずかに，東に振れるもの）SB102，118，Ⅲ群（磁北より，20 ～ 30°振れるもの）SB105，115，Ⅳ群（磁北より，30 ～ 40°振れるもの）SB101，107，111 になる。Ⅲ群は，棟方向に，ばらつきがあり，Ⅳ群に吸収されるのかも知れない。SB102 と SB103，SB106 と SB107，SB105 と SB106 に，重複関係があり，建物群は，（Ⅲ・Ⅳ）→Ⅱ→Ⅰ群と漸次，建替が行なわれたものと考えられる。また，これらは，Ｂ遺跡東端部の建物址との関連の上で，再検討する必要がある。この地区は，居住用の建物に較べ，倉庫址の割合が高く，Ｂ遺跡の周辺部，はずれにあたるものと思われる。SB104，105，106 の２×３間の平面形をとる同規模の建物が，三回，建替が行なわれている。SB118 の北側柱の柱間は，２＋2.5＋1.6＋1.4 ｍと不規則である。SK114 の西側面に接した，小土壙より，須恵器の杯（付図Ⅰ－1）が，出土している。高台の取り付け位置が，左右ずれている。SB115 の南面に位置することから，この建物の時期にあたると考えられる。

奈良時代の柱掘形は，70 ～ 80㎝と比較的大きく，方形に近い形を取るものが多いのに対し，平安～鎌倉時代のものには，掘形 20㎝前後と小さく，深いのが通例で，発掘区，東端

部に多く認められた。建物付近の土壙より，山茶椀・山皿の比較的古いタイプのものが出土していることから，建物の上限を平安末期と考えている。建物址は，棟方向により，西に 18°振れる建物，SB110，125，130，と，棟方向を異にする SB112 に分けられる。前者の建物群は，道路南側で見つかった，平安期の四面廂の建物址と棟方向を同じくするが，四面廂の建物は，床束を持たず，建物構造を異にしている。SB110 の南妻側柱列が不揃いで，4 × 4 間の倉庫址とも考えられる。

このほかに，竪穴住居址が 2 棟見つかっている。1 つは，4 × 3.5m，方形に近いプランを呈する住居址で，周溝を持ち，東側の壁は，細溝によって，削り取られ，焼土は，住居址の東縁に，わずかに認められた。須恵器，土師器の細片が出土し，古墳時代のものと考えている。また，発掘区の北西隅から，竪穴住居址 SB131 の一部を検出した。埋土は黒褐色で，中央に炉祉，まわりに，2 つの柱穴がある。遺物は出ていないが，古墳時代以前のものであろう。

土壙には，SK113，114，116，121，126，127，128 がある。SK113，114 は長方形のプランで，方向は，SB110 と同じである。SK114 の埋土は，灰褐色を呈し，炭化物を多く含み，北西隅の礫が少し焼けていた。この土壙内から，延びる排水溝と，SD117 とが，交叉する近くで，山茶椀の破片とともに，円面硯（付図Ⅰ－5）の破片が出土している。SK127（2 × 1.4 m）より，平安時代末頃の山茶椀と耳皿に混じって緑釉陶器片が一点出土している。SB125 に，付設するものと考えられる。墓址と考えられるものに，円形タイプ SX109，119，120，長方形タイプ SX122，123 がある。SX109，119，100 から，拳大の礫が 10 ～ 20 個と，山茶椀，山皿，土師器片が，多数出土している。SX119 より，山皿に高台が残り，胴部に丸味が少し残る山茶椀が出土している (付図Ⅰ－8，12)。SX122，123 の底には，拳大より，やや小さな礫が下に敷かれ，埋土は，灰褐色を呈し，炭化物を多く含み，山茶椀片が出土している。溝址としては東西に延びる，幅の広い溝と，それに，直交するように，南北に延びる細溝がある。溝は全体に浅く，いろんな時期の土器類が埋まっていた。ほかに，11.5 × 10m の範囲で，方形に区画している，性格不明の細溝 SD117 があり西側で，少し突び出した部分は，SK114 に，接している。

発掘区の西，北区に鎌倉時代の建物址と土壙が点在している。建物址の棟方向は，ほぼ，北西－南東に取り，全て，床束を有している。発掘区，北東隅から見つかった土壙より，刀子が出土している。西区の建物址の柱穴から，山皿（付図Ⅰ－13，17）が出土している。

2.〈CⅡ地区〉

CⅡ地区からも，奈良～平安，鎌倉時代に至る建物址，土壙等が見つかっている。奈良時代の建物址は発掘区の中央部を中心に，北端部と道路に面した南端部に，数棟点在している。中央部の建物群は，比較自勺まとまり，約50ｍ幅(約300㎡)の範囲で，中央に空間を設けるように，ほぼ丸く展開し，１つの集落址を形成している。この建物群も，棟方向に，磁北もしくは磁北から少し，東西に振ったものが多く，前回調査したＢ遺跡の建物群と共通の要素が見受けられ，同時に存在した可能性があり，２つの集落の間に，何らかの関連があったものと思われる。

棟方向から，Ⅳ群に分けられる。Ⅰ群（磁北を向くもの）SB220，223，228，229，234，236，243，Ⅱ群（磁北より，わずかに東へ振れるもの）SB218，219，227，230，231，232，Ⅲ群（磁北より，わずかに西へ振れるもの）SB221，224，225，226，233，235，238，240，244，252，Ⅳ群（磁北より，10～20°振れるもの）SB201，240，252である。Ⅳ群は，発掘区の南端部にあり，中央部から，少し離れたところに位置しており，時期差によるものか，Ｂ遺跡からの延長とするか，検討する必要がある。SB240とSB241，SB228とSB231に切合関係があり，Ⅰ→（Ⅱ・Ⅲ）→Ⅳの順に建替が行なわれたものと考えられる。SB231の柱穴の底に根石を置くものが多い。SB230，233，は建替が行なわれている。北西端部の集落群だけで，１つの集落を形成していたものと思われる。

鎌倉時代の建物址は発掘区の北西端部と南端部にまとまりが見られるほか，広く，全体に点在している。北端部には，６×４間，４×３間など，平面規模の大きな建物のほか，土壙が多数検出されている。SK219は，３×２ｍの長方形を呈した小土壙が，数個重なったものと考えられ，南の１つから，焼土が検出されている。この土壙の東端，南隅から山茶

椀，小皿，壺が出土している (付図Ｉ－６，９，16)。SK213 からは，SK214 を取り囲むように，排水溝が，低い谷に向かって延びている。この土壙内には，拳大の礫が 10 数個，ほり込まれ，ここから青磁片が出土している（付図Ｉ－７)。また，ＣＩ地区でも，明らかになった，円形の土壙 SK206 が SB210 の西側で，見つかっている。こうした，遺構の構成は，南端部も見られ，SB246，249，250 の大形の建物と SK253 の円形の土壙があり，山茶椀，山皿が出土している (付図Ｉ－10，15) また SK251 より山皿 (付図Ｉ－11) が出土している。建物址 SB241，246，250 の東端には，長方形を呈した，土壙 SK242，248，251 が重複している。いずれも土壙の方が新しい。

3. 〈ＣⅢ地区〉

発掘面積は少ないが，奈良時代の建物址，竪穴住居址を中心に，多数の遺構が検出された。発掘区中央部より，やや北に，５×３間で東に廂が付く，大形の建物があり，位いの高い人物の建物を想像することができる。身舎の柱掘形は，70 ～ 80㎝で，方形を呈し，南に深く，北に浅く深いところでは 80㎝，浅いところでは，20 ～ 30㎝である。皿部表面を丁寧に，ヘラ削り調整をした須恵器の高杯が，東側柱の柱穴より出土している（付図Ｉ－４)。３×３間の大きな倉庫址は，掘形，棟方向から廂付建物と共存するものであろう。２×２間の小形の倉庫址２軒は，掘形，棟方向が，異なることから，他の建物に付設するものと考えられる。ＣⅡ地区，中央部で多く見られた，磁北を向く建物が，中央部，西端で，数棟，検出された。また，棟方向により，建物址を検討してみると，次の様になる。Ⅰ群（磁北を向くもの）SB301，318，319，320，Ⅱ群（磁北から，わずかに東へ振れるもの）SB311，313，317，330，Ⅲ群（わずかに西へ振れるもの)SB329，Ⅳ群（磁北から，10 ～ 20°振れるもの）SB304，305，312，Ⅴ群（磁北から 20 ～ 30°振れるもの）SB303，313，Ⅵ群 (磁北から 30 ～ 40。振れるもの）SB327 である。ＣⅡ地区より，棟方向に，大きな幅がみられる。

竪穴住居址は，北区，東端部で，３棟見つかっている。それぞれ重複関係を持ち，SB 310 が新しく，SB307 → 308 → 310 の順で，建替られたものと考えられる。規模は，推定

で５×３ｍの長方形を呈し，周溝が部分的に残り，旧地表と床面との深さの差はほとんどない。炉は，住居址の長，短軸の，いずれも，中央より，ややどちらかに片よったところに，設けられ，床面は，部分的に，粘土をはり，強く叩きしめられている。SB307 の床面より須恵器の蓋が出土している（付図Ｉ－２，３）。東廂の建物との共存関係は，一番古い，竪穴住居址の棟方向から，考えられないことも無いが，出土した土器から観察すると，竪穴住居址の方が，少し新しいように思われる。

発掘区，南端部で，鎌倉時代と考えられる小さな柱穴と土壙 SK324，325，326，328 がある。SK325，326 は，方形，円形のプランを呈し，拳大の礫が，多数ほり込まれ，切合関係より SK325 が新しいことが判る。SK328 の西端部に，焼土痕跡が見られる。

Ⅲ　結　　語

昨年，調査した，末野Ｂ遺跡からは，約 80 棟の奈良時代を中心とする，建物址が検出された。その中には，廂，柵列を伴う，建物群があり，この台地上に展開した，古代集落址の代表的な建物であることが判明した。

仮設道路，北側の末野Ｃ遺跡も，当初，多数の建物址を予想したが発掘面積に較べ，意外と少なく，Ｂ遺跡の大集落とは，対照的であった。Ｂ，Ｃ遺跡の発掘面積を合わせると約 35,000㎡となり，末野台地の調査対象面積のほぼ，８割を占め，古代集落の規模・変遷が，明らかにされつつある，ここで，今までに判った集落の実態について，少し，まとめてみたい。

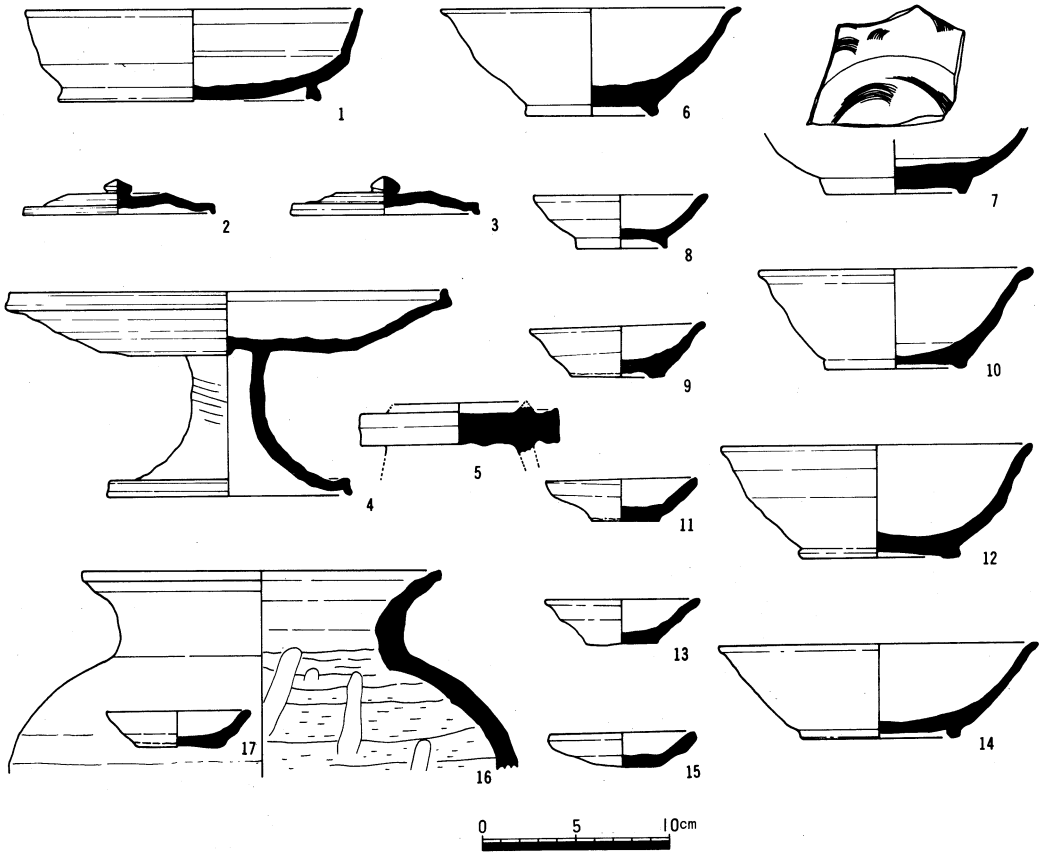
①　末野台地の南側は，湧水の豊富な谷に望み，遺構遺物の密度が高いことが，試掘調査，本調査などから明らかにされた。逆に，台地北側から，北縁辺部も，谷に面し，生活条件に適した場所であるが，発掘面積の割には遺構が少なかった。しかし，奈良時代を中心とする集落址のほか，新しく鎌倉時代の集落を確認することができた。また，古墳時代の住居址は，ＣⅠ地区の１棟を除いて発見されず，この時代の集落の中心が台地の南側から，谷を取りまく，南の丘陵台地に限定されていたことが判った。

②　末野Ｂ，Ｃ遺跡の奈良時代の建物址は，棟を磁北もしくは磁北に近い方向に取るものが，圧倒的に多く，前回調査した，西高山Ａ，Ｃ遺跡では，数棟に限られていた。時期的な差によるものか建物群の性格によるものか，各集落間の関連も含め，検討する必要がある。

③　奈良時代の集落は，ＣⅡ地区中央部にみられる集落址の様に，ある範囲内に，構成されているのに対し，鎌倉時代の集落は，地域的な面を考慮する必要があるが，広く，分散するのが特徴である，ＣⅡ地区の北，南側に，それぞれ見られる，大形の建物群を基に２つの集落を予想することができ，更に，建物址の多くは，棟方向を，北西－南東に取ることから，総てを含め，１つの農村社会を考えることもできる。建物に，柵によって，囲まれた館的なものは無いが，平面形が，３×２間以上の大きな建物が，中心をなし，有力

農民層の住居を想定できる。しかし，台地を包む，小枝谷だけが，生産活動の場であれば，自然と生産基盤が限定されていたと考えられ，この時代を境として，古墳時代から続いていた古代集落がこの台地から，消失するがこうした社会的な背景も，１つの原因ではないのだろうか。

④　鎌倉時代の建物は，総て，床束を有し前時代の建物とは，構造を異にしている。柱穴内より，古いタイプの山茶椀，山皿，が出土していることから，この台地では平安時代末期頃から、建物に床が付くものと考えたい，この点について地域的なことか，他の遺跡と比較検討する必要がある。



付図２　出土遺物、実測図（１：４）

付表１　ＣⅠ地区掘立柱建物址の規模

（奈良時代）

名称ＳＢ	規模（間）	桁行（m）	梁行（m）	棟方行	備考
101	２×３	2.7	2.6	Ｎ 40°Ｅ	・倉庫址
102	－×３	－	3.9	Ｎ 5°Ｅ	・掘り方大
103	３×３	－	5.0	Ｎ－Ｓ	・ＳＢ 102 よりも新　・倉庫址
104	３×２	4.3	4.2	Ｎ 11°Ｅ	・ＳＢ 105 より新
105	３×２	4.2	3.8	Ｎ 80°Ｗ	・ＳＢ 106 より古
106	３×２	4.2	3.8	Ｎ - Ｓ	
107	３×２	5.2	3.4	Ｎ 53°Ｗ	
108	３×３	5.2	4.5	Ｎ 13°Ｅ	・倉庫址　・掘り方大
111	２×２	2.7	2.4	Ｎ 36°Ｅ	・倉庫址　・　〃
115	３×２	4.8	3.8	Ｎ 63°Ｗ	
118	４×－	8.5	－	Ｎ 83°Ｗ	・柱間２＋２．５＋１．６＋１．４ｍ

（平安～鎌倉時代）

名称ＳＢ	規模（間）	桁行（m）	梁行（m）	棟方行	備考
110	５×４	11.4	8.6	Ｎ 18°Ｅ	・床束
112	３×２	5.6	3.8	Ｎ 85°Ｗ	・床束　・妻側柱間２．２＋１．４ｍ
125	３×２	6.4	3.9	Ｎ 72°Ｗ	・床束
130	３×３	6.7	6.6	Ｎ 18°Ｅ	・床束　・倉庫址

付表２　ＣⅡ地区掘立柱建物址の規模

（奈良時代）

名称ＳＢ	規模（間）	桁行（m）	梁行（m）	棟方行	備考
218	３×２	3.9	3.4	Ｎ 5°Ｅ	
219	２×２	3.7	3.4	Ｎ 6°Ｅ	・床束
220	３×２	5.8	4.0	Ｎ－Ｓ	・掘り方大

221	３×２	６．４	４．１	Ｎ３°Ｅ	・掘り方大
222	４×２	７．１	４．８	Ｎ－Ｓ	
223	３×２	６．４	３．８	Ｎ－Ｓ	
224	３×２	６．２	２．８	Ｎ88°Ｗ	
225	３×２	５．２	３．８	Ｎ76°Ｗ	
226	３×２	４．８	４．０	Ｎ１°Ｅ	
227	３×２	５．６	４．２	Ｎ81°Ｗ	
228	３×２	６．８	４．７	Ｎ－Ｓ	
229	２×２	５．６	３．６	Ｎ－Ｓ	
230	４×２	８．６	５．２	Ｎ４°Ｅ	・西側柱 2.1 ＋ 2.1 ＋ 4.3 m
231	４×２	８．０	４．８	Ｎ86°Ｗ	・ＳＢ 228 より新
232	３×２	３．６	３．４	Ｎ９°Ｅ	
233	４×２	７．０	７．２	Ｎ４°Ｗ	・東廂、建替
234	３×２	５．２	３．４	Ｎ－Ｓ	
235	２×２	４．６	４．４	Ｎ４°Ｗ	
236	３×２	４．８	４．８	Ｎ－Ｓ	
237	４×２	６．７	４．８	Ｎ86°Ｗ	
238	４×２	６．８	４．６	Ｎ４°Ｗ	
239	３×２	５．４	４．８	Ｎ80°Ｗ	
240	３×２	４．４	３．２	Ｎ76°Ｗ	
243	３×２	６．０	５．０	Ｎ－Ｓ	・ＳＢ 240 より新　・掘り方大
244	３×２	４．８	３．４	Ｎ73°Ｗ	
252	３×２	６．２	４．０	Ｎ84°Ｗ	

（平安～鎌倉時代）

名称ＳＢ	規模（間）	桁行（m）	梁行（m）	棟方行	備考
217	３×２	６．２	３．６	Ｎ80°Ｗ	・床束
241	４×２	８．６	６．２	Ｎ78°Ｗ	・　〃
245	３×２	５．７	３．８	Ｎ40°Ｅ	・　〃
246	４×３	９．４	６．８	Ｎ52°Ｗ	・　〃　・南廂
249	５×３	１１．１	６．４	Ｎ76°Ｗ	・　〃
250	６×４	１４．４	７．５	Ｎ76°Ｗ	・　〃　・東廂

付表３　ＣⅡ地区掘立柱建物址の規模

（奈良時代）

名称ＳＢ	規模（間）	桁行（m）	梁行（m）	棟方行	備考
201	－×３	－	４．８	Ｎ 34°Ｅ	
202	３×２	５．８	３．６	Ｎ 56°Ｗ	
203	４×２	８．２	４．４	Ｎ 56°Ｗ	・ＳＢ 202 よりも新　・建替
205	３×３	４．４	３．８	Ｎ 25°Ｅ	

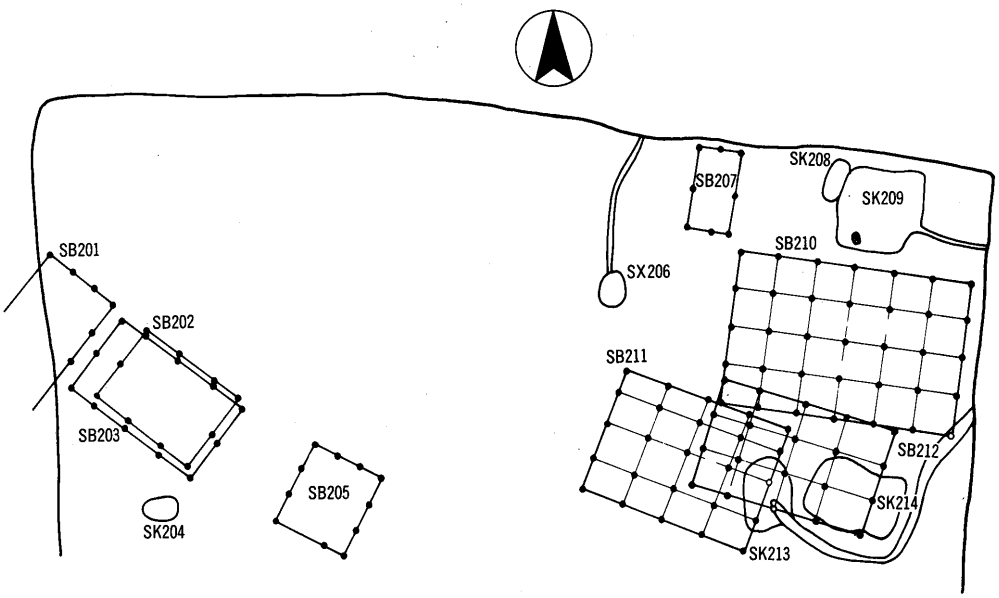
（Ⅱ）（平安～鎌倉時代）

名称ＳＢ	規模（間）	桁行（m）	梁行（m）	棟方行	備考
207	２×２	４．６	２．２	Ｎ８°Ｅ	
210	６×４	１２．８	８．２	Ｎ 88°Ｗ	・床束
211	４×３	１０．１	５．８	Ｎ 72°Ｗ	・　〃　・北廂
212	４×４	９．４	６．６	Ｎ 80°Ｗ	・　〃

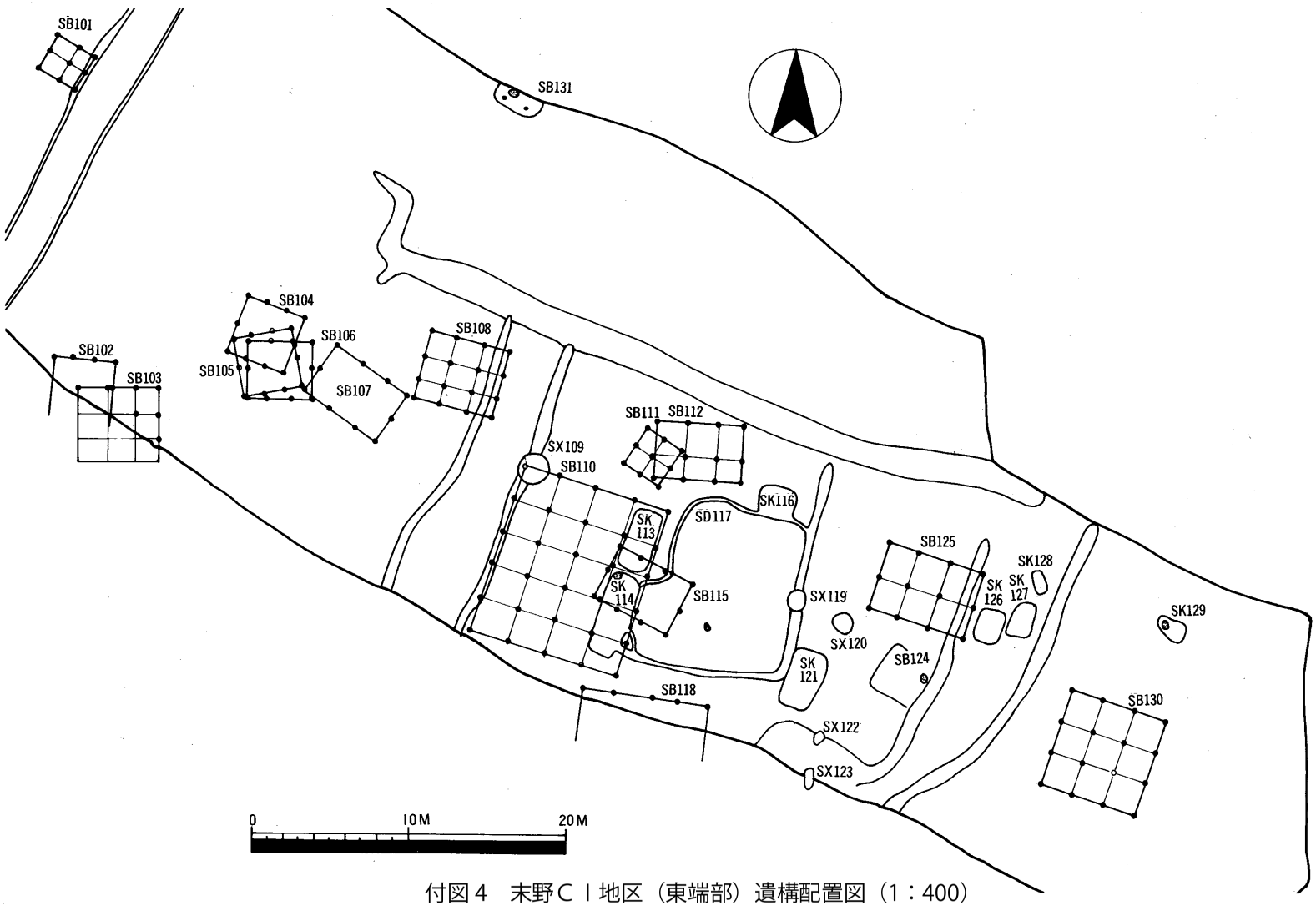
付表４　ＣⅢ地区掘立柱建物址の規模

名称ＳＢ	規模（間）	桁行（m）	梁行（m）	棟方行	備考
301	３×３	５．６	３．６	Ｎ－Ｓ	
303	３×２	６．４	３．０	Ｎ 76°Ｗ	
304	－	－	－	Ｎ 14°Ｅ	
305	２×２	３．７	３．０	Ｎ 14°Ｅ	
310	２×２	３．６	３．４	Ｎ 25°Ｅ	・床束　・倉庫址
311	４×５	１１．２	７．８	Ｎ８°Ｅ	・東廂　・掘り方大
312	２×２	３．５	３．０	Ｎ 11°Ｅ	・床束　・倉庫址
313	３×３	４．２	４．０	Ｎ５°Ｅ	・掘り方大
315	３×２	５．２	３．８	Ｎ 14°Ｅ	
316	３×２	５．８	３．８	Ｎ－Ｓ	
317	３×２	４．８	３．４	Ｎ 86°Ｗ	

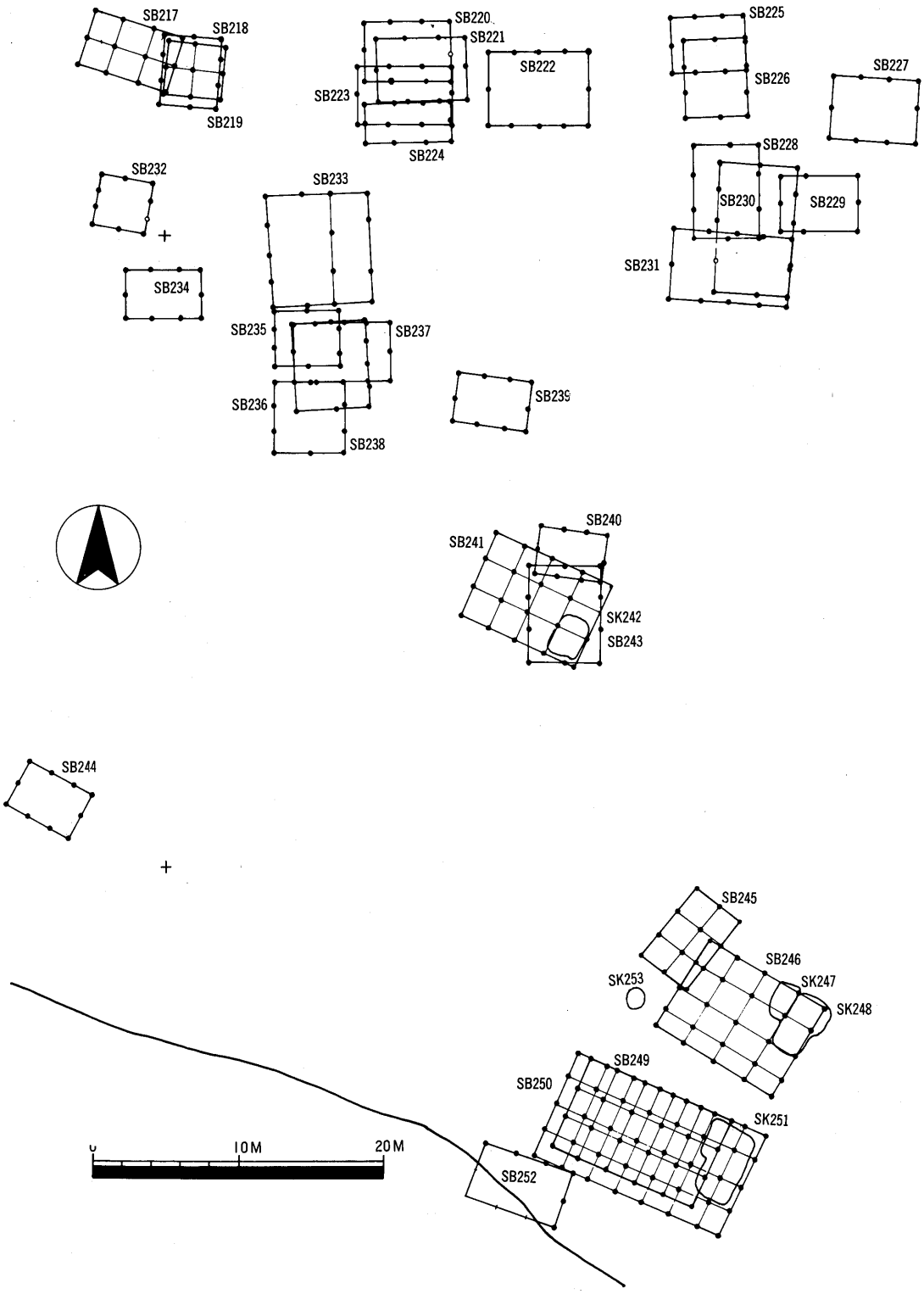
318	3×－	5.4	－	N－S	
319	2×2	4.0	2.9	N－S	
320	2×2	4.2	4.0	N－S	・掘り方大　・床束
327	3×2	4.2	4.0	N 34°E	・床束
329	3×2	6.7	3.8	N 8°W	
330	3×2	4.2	－	N 9°E	



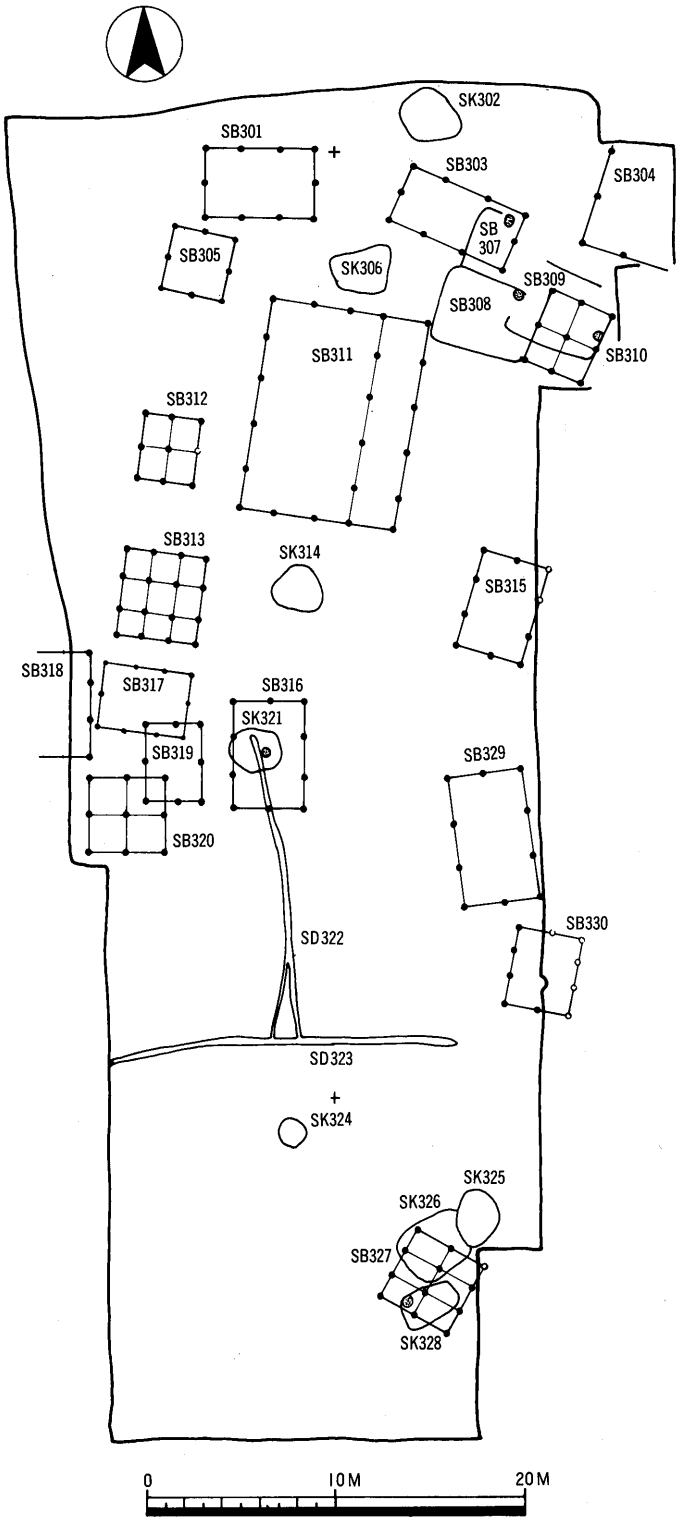
付図3　末野ＣⅡ地区（北端部）（1：400）



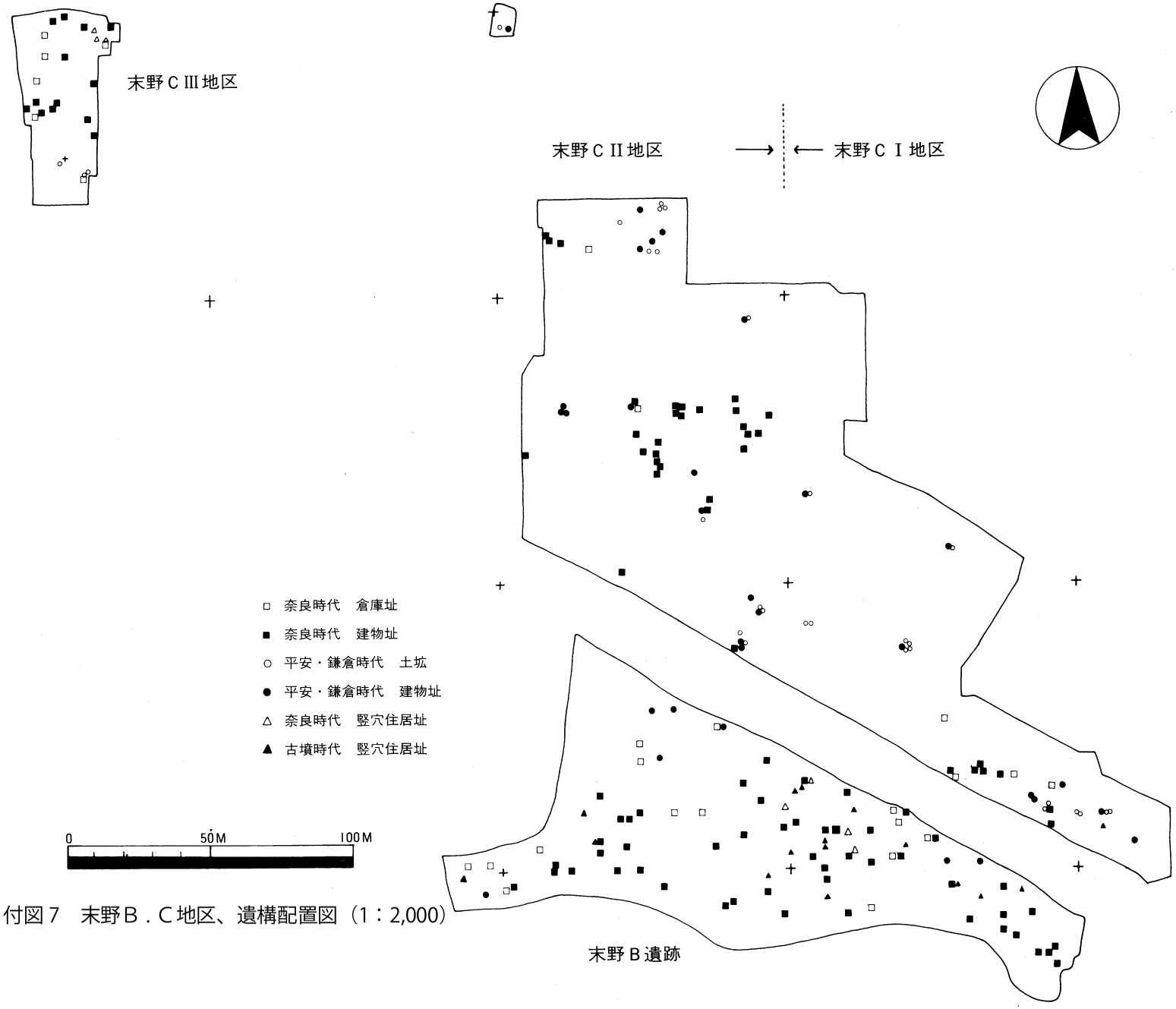
付図４　末野ＣＩ地区（東端部）遺構配置図（1：400）



付図５　末野ＣⅡ地区（中央～南端部）（1：400）

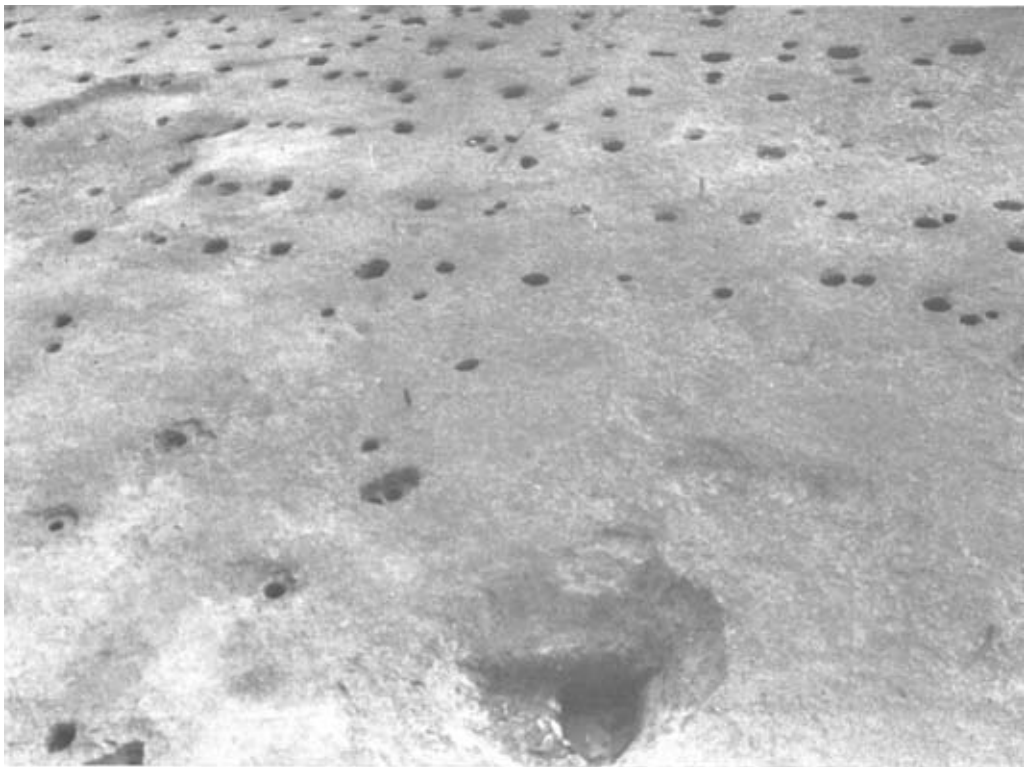


付図６　末野ＣⅢ地区遺構配置図（1：400）



付図７　末野Ｂ．Ｃ地区、遺構配置図（1：2,000）

ＣⅠ地区　ＳＢ 104、105、106、108（西より）



ＣⅡ地区（南端部）　ＳＫ 253　ＳＢ 249、250（北より）

ＣⅢ地区（北端部）　ＳＫ 209、213　ＳＢ 210、212（南より）

ＣⅢ地区　ＳＢ 311、313　ＳＫ 314（北より）